



第3回 朝読書が始まります！

期間 2月18日（水）～3月6日（金）

時間 8時20分～8時30分（10分間）

※朝読書記録カードに、記入しましょう。

※雑誌やマンガ以外、読みましょう。

※本は前もって準備しておきましょう。

山田風太郎賞 (KADOKAWA が主催)

山田風太郎の敬意を礎に有望な作家の作品を発掘するため 2010 年に創設。ジャンルを問わず最も面白いと思われる作品に贈られる。

第16回受賞作 大門剛明 『神都の証人』

冤罪で父を奪われた少女と、真実を求めた弁護士と検事。

昭和から続く 80 年の覚悟が、司法の「開かずの扉」をこじ開ける。

第16回受賞作 遠田潤子 『ミナミの春』

売れない芸人を続ける娘、夫の隠し子疑惑が発覚した妻、父と血のつながらない高校生、大阪・ミナミを舞台に、人のあたたかさを照らす。

このミステリーがすごい大賞！

（宝島社、NEC、メモリーテックの 3 社が創設）

1988 年に刊行が始まった「このミステリーがすごい！」の知名度が高まることを受けて創設された、2002 年からのミステリーソノノミヤの公募新人賞である。略称は『このミス』大賞

第24回受賞作 犬丸幸平 『最後の皇帝と謎解きを』

紫禁城で起こる事件に清朝最後の皇帝と日本人絵師が挑む！

身分も国も超えた人々の友情×歴史ミステリー

最上校図書委員会

No.22 2月12日



朝読書の 4 原則

みんなでやる
毎日やる
好きな本でよい
ただ読むだけ



日本は賞大国！

世界の中でも書籍に対する？？賞というものは日本の国ほど多い国はないらしい。先日発表になったばかりの芥川龍之介賞・直木三十五賞は文藝春秋社社長の菊池寛が友人の直木三十五を記念して 1935 年に芥川龍之介賞とともに創設し、一年間に前期・後期と二度開催される日本では最も有名な賞です。他にも色々あるので紹介します。開催するにあたって、出版社が創設、主催、後援したりしていますが、自社出版の作品に受賞させるのではなく、公平に審査をして、その賞の趣旨にあった作品に決定して受賞させるところが、日本の出版界の良いところのようです。

第174回芥川賞受賞作 鳥山まこと 『時の家』

一つの平屋を舞台に、3 代の住人を家の視点から眺めた小説。

第174回芥川賞受賞作 畠山丑雄 『呼び』

大阪と大陸で響き合う夢とロマン、恋愛政治小説。

第174回直木賞受賞作 嶋津輝 『カフェーの帰り道』

女給として働いた、百年前のわたしたちの物語。

吉川英治文学賞 (講談社が後援)

日本のエンタメ小説界で直木賞と並ぶ最高峰の賞の一つ

国民的作家・吉川英治の偉業を記念し 1967 年創設

第59回受賞作 角田光代 『方舟を燃やす』

オカルト、宗教、デマ、フェイクニュース、SNS。あなたは何を信じていますか？飛馬と不三子、縁もゆかりもなかった二人の昭和平成コロナ禍を描き、信じることの意味を問いかける。

山本周五郎賞 (新潮社が後援)

大衆文学の分野で活躍した山本周五郎の功績を記念し 1988 年に創設
物語性を重視することが大きな特徴

第38回受賞作 新川帆立 『女の国会』

国会のマドンナ “お嬢” が遺書を残し自殺した。

敵対する野党第一党の “憤慨おばさん” は死の真相を探りはじめる。議員・秘書・記者の覚悟に心震える、政治×大逆転ミステリ！





朝読書にオススメの短編集！



『国家を作った男』 宮内悠介著

ジョン・アイヴァンコがアメリカンドリームを掴むまでに一体何があったのか、そしてそれでも拭い去れなかった孤独の影にあったものとは。その生涯を描いた一遍をはじめ、13編。

『あいにくあんたのためじゃない』 柚木麻子著

いまは手詰まりに思えても、自分を取り戻した先につながる道はきっとある。この世を生き抜く勇気がむくむくと湧いてくる6編。

『それは令和のことでした』 歌野晶午著

一行を読み逃せば、謎の迷宮から出られない。新しい価値観のゆらぎが生み出す7つの悲劇。

『グリフィスの傷』 千早茜著

からだは傷みを忘れない。たとえ肌がなめらかさを取り戻そうとも。傷をめぐる10の物語を通して癒えるとは何かを問いかける、切々とした疼きとふくよかな余韻に満ちた短編小説集。

『ヒカリノオト』 河邊徹著

時に慰め、時に励まし、彼らの人生の岐路に寄り添っていた一つの音楽が、場所や時間を超えて広がっていく奇跡を、ミュージシャンとしての経験を持つ著者がみずみずしく描いた連作2編。

『魂婚心中』 芦沢央著

現実とちょっとだけ異なる世界の謎と関係性の物語6編。

『六月のぶりぶりぎっちょう』 万城目学著

京都の摩訶不思議を詰め込んだ「静」と「動」の2編。

『黄昏のために』 北方謙三著

究極の絵を追い求める一人の画家の生を、選び抜いた言葉で彫琢した、魂の小説集です。孤高の中年画家が抱える苦悶と愉悦が行間から匂い立つ、濃密な18編。



『マザー』 乃南アサ著

あなたはもう、以前の家族には戻れない。衝撃の令和の家族像。

母という禍、家庭という地獄。ひょっとして獄吏は自分自身なのかもしれない。予想外の驚愕の結末が待ち受ける5編。

『愛しさに気づかぬうちに』 川口俊和著

そばにいたのにすれ違ってしまった人達の、再出発の物語4編。

『藍を継ぐ海』 伊与原新著

人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた、科学だけが気づかせてくれる大切な未来。5編。

『富士山』 平野啓一郎著

あり得たかもしれない幾つもの人生の中で、何故、今この人生なのか？その疑問を抱えて生きていく私たちに、微かな光を与える5編。

『スマラミシング』 小川哲著

壊れゆく世界の未来を問う、現代の默示録。

宗教×超弩級エンタメ6編。

『まず良識をみじん切りにします』 浅倉秋成著

「とにかくへんな小説をお願いします」そんな型破りな依頼に応えるべく、炒めて煮込んで未知の旨味を引き出した傑作集。日々の違和感を増殖、暴走させてたどり着いた前人未到の5編。

『その嘘を、なかったことには』 水生大海著

物語のラストでこれまでの景色が一変するどんでん返し。心地よさも心地悪さも味わえるミステリ5編。

『Nの逸脱』 夏木志朋著

何気なく開けてしまった隣人の扉、フツウの奥に隠されていたものは追う者と追われる者が入れ替わり、善と悪が反転していく予測不可能な展開。隣の人たちが繰りひろげる3編。



※ぜひ、図書館へ！